

# 報學大西

號併合 七十二百二第  
八十二百二第

月七年三十二和昭

The Kansai University Bulletin

行發部版出學大西關



# 關西大學々歌

自然の秀麗	人の親和	勵むは一途	研鑽の
たぐひなき	此の學園	日々を樂しみ	忘れまじ
我等起つ	人生の曙に	關西大學	關西大學
燦たる理想を	仰ぎつゝ	關西大學	重き使命
學ぶは一途	純正の	自治の訓練	自治の發揮
若き心に	讚へなん	たぐひなき	此の學園
關西大學	關西大學	吾等期す	人格の向上に
關西大學	永き歴史	正義の奉仕	世に爲すと
二	學の質化	希ふは一途	先進の
眞理の討究	此の學園	歩みさやかに	傳へばや
たぐひなき	潑刺の精神を	關西大學	關西大學
吾等持つ	創るべく	關西大學	高き權威
榮ある文化			

Symbols of our University.

Doctrina vim promovet insitam,  
 Rectique cultus pectora roborant.  
 .....Horatius, Od.

教育は本性を高め、  
 正しい文化は心情を豊にする。  
 .....ホラチウス

# ユネスコと科學的人間主義

文學部長  
教授 堀 正 人

ジュリアン・ハックスレイが有名な英國の生物學者トマス・ヘンリー・ハックスレイ (1857-1935) の孫にあたり(彼はその愛孫中の愛孫であつた)、彼自身もまた現代英國における有数の生物學者の一人であり、科學的評論家であり、科學知識の普及に功績の多い人物であることは、今更贅言を要しない周知の事實であるが、彼はユネスコ(國際連合教育科學文化機關)の設立に際し、一九四六年二月アルフレッド・ジンメルン卿引退の後を受けてその準備委員會委員長となり、一九四六年十一月九日より十二月初旬までパリで開催されたユネスコ第一回總會において事務總長に任命された。これと殆ど相前後して、彼が Free World (同年十二月紐約發行) に掲げた論文「ユネスコ、その目的と哲學」は、すでに我が國の雜誌「世界」(昭和二十二年七月號)に譯載されてゐるが、その中で彼は、「ユネスコにとつての主要事は、世界の諸々の人民の間の教育的、科學的、文化的關係によつて裨益される限りで、平和と安全と人間の幸福とを促進するにある」と説き、従つてその前途の展望は、何等かの形で人間主義の上に基づけられねばならないと言つてゐる。そして更に進んで、「そのヒューマニズムは世界中のあらゆる人民を參加させようとする意味でも、また、あらゆる人民及び各人民中のあらゆる個人を人間としての尊嚴と相互尊敬と教育の機會とに關して平等に取扱ふ意味でも、明瞭に世界的なヒューマニズムでなければならぬ」といひ、そして「それはまた、科學の應用が人間の文化の物質的地盤の大部分を提供するといふ意味で、また科學の實踐と理解とが他の人間の活動に結合されるといふ意味でも、科學的ヒューマニズムでなければならぬ」と述べてゐる。彼はなほ、それは靜的な、もしくは理想的なヒューマニズムではなくて、進化的ヒューマニズムでなければならぬと論じてゐるが、この世界的な、進化的な、科學的な人間主義といふ思想は、決して彼にとつて今に始まる思ひ附きのものではなく、實に彼の長年の持論、持論と稱すべきものである。

彼には夙に一九三一年に公にした「わが所信」(What dared I think?)と題する講演集があるが、その序文の中で、彼は最初この書を「科學的人間主義試論」と命名するつもりであつたと述べ

## 目次

ユネスコと科學主義……………堀 正人(一)	學 園……………(五)
新制大學入學式…學部卒業式…宮島理事長就任…アメリカ圖書寄贈…讀書と致養の會…教育後援會…關大一中P・T・A	新制大學職員及科目擔任表…各學部授業科目及單位表
校 友……………(五)	校 友……………(五)
關大政治學會…常議委員會…校友會地方支部大會及文化講演會…尼崎支部大會…昭七會…校友俱樂部開設	
詩 歌……………(一〇)	登 高 賦……………堀 正人
勤 思 餘 瀝……………吉本一朗	隨 筆
むかしの富くじ……………靜湖生(三)	

特にその第四章、第五章を占める講演（一九三〇年社會政治教育聯盟會長として行ったもの）において「科學的人間主義」(Scientific Humanism)を説いてゐる。また一九三四年刊行の「余をして獨裁者たらしめば」(If I were Dictator)において、彼は「獨裁者としてわたくしのなすべき最も根本的な仕事は思想對策である。だがその第一着手は自身自身の思想である。わたくしは哲學を持たねばならぬ。……そしてわたくしの哲學は科學的人間主義である」(同書六頁)といつてゐる。これに由つて見ても科學的人間主義がハックスレイの年來の主張であつたことが明かである。だがその所謂科學的人間主義は如何なる内容、理論を持つものであらうか。

さうした科學は二つの目的をもつものであつて、一は最も正確な世界像を我々に與へることであり、一は我々人間の環境と運命とを支配する手段を我々に提供することである。が、少くとも人類文化の現段階において、それが人間又は人間主義と内面的にも外面的にも屢々恐るべき對立關係に立つことは我々の熟知し痛感してゐるところで、ハックスレイも「余の所信」第四章「科學と人間性との鬭争」(The Conflict between Science and Human Nature)のなかでこの問題を取扱つてゐる。けれども本來この兩者は決して對立しなればならないものではなく、對立してはならないものなのである。そして科學的人間主義は正に兩者の調和を企圖するものであるが、そのためにそれはまづ「人間」といふものゝ正確な概念を科學的に確立し、次にかくして把握された「人間」のために、その環境と運命を支配する手段を科學的に獲得しようとするのである。かくてハックスレイは生物學的研究を通じて、人間を、從來の如く、宇宙の中心に位置する特權的存在とは看做さないが、尙且つそれが我々の知る最高のものたることを確認し、また人間精神を、混沌たる經驗の中から秩序を抽出する能力あるものとして、人間に對する虚無感絶望感から我々を救ひ出した。「人間は宇宙に於ける非常に特殊な現象のやうに思はれる」と彼はいつてゐる。「それは一般の世界構成物質の

一部分でありながら、變化と鬭争の長い過程の結果として、自己を意識し、又その他の世界構成物質との關係を意識し、希望し、感じ、判斷し計劃することの出来るやうになつたものである。それは宇宙の理性的自意識の實驗であるといへる。」すなはち人間精神をもつて彼は進化の最高段階に立つものとした。こゝに科學的人間主義における精神尊重、文化擁護の根柢がある。けれどもそれは決して人間を完成したものとすることはなく、今尙進化の過程中にあるものと考へる。但しその進化は今や人間の意識無しには行はれ得ない段階に達したことを彼は強調する。そして「明かに考へ、深く感じ、強く欲すること」即ち「より多くの生」を持つことが、進化の目的に適ふと彼は Science in the Changing World, 1932, p. 198. If I were Dictator, p. 11.) としてこの目的の達成のために、人間は超自然的なものへの依存を排して、その指導と協力とを科學に俟たねばならない。従つて進化の實驗に於ては、人間に對しても無生物や動植物に對すると同様の科學的方法の採用が許されねばならぬ。固定と一樣化とは進化の法則の敵として飽くまで退けられねばならぬ。即ち科學的人間主義は人間の多様性を許容し、その一要素に優位を與へないように企てる。何となれば生命なるものが元來「對立」によつて成立し、「可能性の制限」こそ生物學的成功の不可缺の條件だつたからである。それは論理的思惟を重んずると共に、神祕的經驗を尊び、自己犠牲と共に自己表現を承認する。だからかかる主張の實現には、當然その根本に相互理解と寛容とが豫想されねばならない。「相互理解と共通の傳統こそ人間進歩の基礎を形作るのであるから、機械の如き或は職の如き特殊化専門化は避けなければならぬ。何となれば、それは必然的に相互理解を妨げ、社會的傳統の統一を破壊するからである。若し相互理解と寛容とがなければ、人間の生んだ種々の價值が均衡を維持して、慘憺たる相剋を來たさないやうな環境は生れ出ぬのである。」

ハックスレイは更に「生物學と社會學」(Essays of a Biologist,

1923: Biology and Sociology) の中言ひつゝ、「競争と協力とは進化の全過程を通じて起る。しかし協力は、高等生物においてはより重要な役割を演ずるやうになるのである」と。そして彼は進んで、人類においては「協力が一層緊急な問題になりつゝあることを指摘し、生物學的見地より見て、「世界國家」が單なる夢想家の白晝夢ではなく、人類にとつての明かに望ましい目標であることを説いてゐる。また「余をして獨裁者たらしめば」においても、彼は人類に無限の進歩の可能性を認めつゝ、その進歩は決して必然的に來るものでなく、明晰な思考と適當な組織、機關によつて將來され得るものとし、これを妨げてゐるものは國際主義、世界體制に反對する國家主義であると考へてゐる。(Ibid., pp. 13, 14.) ここにおいて進歩的な科學的人間主義は自ら世界的人間主義となるのである。

さて科學的人間主義を瞥見した視線を、ユネスコの上に轉じて見るとそれは思想的に殆んど完全に科學的人間主義に符合するか、或は科學的人間主義にその基底を見出し得る性格を具へてゐることが看取される。ユネスコ憲章前文はまづ「相互の慣習と生活についての無智は、人類の歴史を通じて、世界の諸國民のあいだの猜疑心と不信との共通な原因であり、それがため、諸國民の不和は、あまりにもしばしば戦争にまで勃發した」といひ、人間の尊嚴・平等および相互尊重といふ民主的原則を否認することを排擧し、「文化の廣汎な普及および正義と自由と平和に對する人間性の教育は、人間の尊嚴にとつて缺くことのできないものであり、かつ、すべての國民が相互援助と相互關心の精神において果さなければならぬ神聖な義務である」と説いてゐる。そして進んで「この憲章の加盟國は、萬人に對する完全にして平等な教育の機會、客觀的真理の拘束されない探究ならびに思想および知識の自由な交換を信じ、加盟國の民衆のあいだの通信方法を發展・増進せしめ、かつ、これらの方法を相互理解と相互の生活についての、いつそう眞實にして完全な認識のために用いることに同意しかつ決定した」といつてゐるが、これが科

學的人間主義或はそれによつて基礎づけらるべき思想でなくて何であらう。ユネスコ憲章第一條第一項に「この機關の目的は、正義、法の支配ならびに國際連合憲章によつて、人種、性、言語または宗教の差別なしに、世界の諸國民に對して確認された人權および基本的自由の普遍的尊重を促進するために、教育・科學および文化を通じて、諸國民の間の協力を増進することにより、平和と安全とに貢獻するにある」(なほ國際連合憲章第五十五條(ハ)並に同第七十六條(ハ)(參照)とあるが、この人種、性、言語ならびに宗教の差別的超越は、ユネスコに對して横に廣い世界的性格を賦與すると共に、縦にそれ等を超えて内面的性格を與へるものであらう、少くともその可能性を含んでゐると言ひ得る。ハックスレイは「ユネスコ、その目的と哲學」の中で、或る特定の主義もしくは哲學を受け入れることは、ユネスコに許されてゐないと、その建前を明かにして、それはローマ舊教にせよ、プロテスタントにせよ、佛教にせよ、ユダヤ教にせよ、印度教にせよ、或はまた諸々の政治經濟的教説、資本主義的自由企業の現在の形態、マルクスの共產主義、半社會主義的計劃その他——の中のどれか一つを支持して他を排擧することが出來ないといつてゐるが、これは人間の多様性の尊重と固定化の排斥とを強調する科學的人間主義の精神に直ちに結び附くものであらう。ユネスコ憲章第一條第三項の「この機關の加盟諸國の文化および教育制度の獨立、完全および豊かな多様性を保全するため、この機關は、本質的に、加盟國の國內管轄權に屬する事項に干渉することを禁止される」といふ規定は、それが國際的、世界的性格を持ちつつ、劃一的國際主義、世界主義を排することを表はすものとして、如上の觀點から特に意義深いものであると言はねばならない。

ハックスレイは、また「ユネスコ、その目的と哲學」において、その哲學と言ひ得べきものは唯物論であり得ず、人生の物質的諸相と同様に精神的諸相をも包含せねばならないと論じ、それは眞に一元論的な哲學的地盤の上に立たねばならないといつてゐるが、彼はすでに「人間と資



在」(Science in the Changing World: Man and Reality.)のなかで、人間は單なる肉體プラス精神とでも言ふ可きものではなく、肉體—精神(Body-mind)とでも言ふ可きもので、肉體と精神とは、唯一の實在の両面であり、生命なるものが分析の極に達すれば、物質から發展したものであるから、あらゆる生命體におけると同様に、無生物にさへ精神と同質の何物か存在する筈であると言つてゐる。彼はまた宇宙は、自然と超自然、物質と靈魂、科學と非科學などの貼札をした部屋に、地球の表面を大地と水とに分つやうに、分ち得るものではない。我々は宇宙の一元觀を把持しなければならぬと説いてゐるが、これこそ科學的人間主義の第一原理といふべきものである。

ハックスレイは「余の所信」のなかで「わたくしの所見に従へば人間主義にとつての眞の仕事は、われわれがすべて有益なりと感ずる、團體的行動と忠誠とに對する欲求を満たし、知的欲求と共に自己犠牲の衝迫をも満たすべき團體機關を發展させることである」(Ibid., p. 171)と云つてゐる。彼は從來もその科學的人間主義的な實際活動や計劃に關係し、PEP(政治經濟計劃)なるものにも干與してゐたやうであるが、彼は勿論單なる現實的實行家ではない。彼は「余をして獨裁者たらしめば」の中で、彼の理想社會(それは決して靜止的理想社會ではないが)の輪廓を素描し、そして「わたくしは二つの目的を持つてゐる。一は廣く全般に亘つて肉體的並に精神的福利の基礎を築くことであり、一はその基礎の上に立つて自己發展及び自己犠牲を求むるより深奥なる人間の衝動に満足を興へ、しかもその満足が價値あり意味ありと感ぜらるゝやうにすることである」と、そこでも書いてゐるが、彼の常に求むるところは、價値あり意義ありと感ぜらるる人間の満足の合理的獲得であつた。彼がユネスコの準備委員會委員長就任以前において、その憲章起草委員會に何等かの形で参加してゐたか如何かをわたくしは詳かにしないが、よし彼が憲章の作成に與らなかつたとしても、彼のユネスコへの参加はその思想的傾向の一致のためであり、或はユネスコにおいて彼の思想が

實現し得られ、またユネスコが彼の思想をその哲學とし得ると、彼が信じ得たからであらう。勿論、彼は特定の哲學の固執がユネスコの原理と相容れないことを説いたが、最も根本的な意味における哲學を持ち得ない團體に参加したり、情熱を感じたりすることは、更に自己の主張と相容れない主義に立脚する團體に加盟したりすることは、夙に祖父トマス・ヘンリーをしてすら舌を巻かしたほどの剛愎とも稱すべき素質を供へた彼には出來ないことと思へるのである。(Huxley, by E. W. Mac-Bride, p. 98 参照)。「ユネスコ、その目的と哲學」の中で彼は「ユネスコのやうな組織は、その仕事を實際に遂行するために、一箇の現實的に作用する哲學、人間の存在と目的とに關する一箇のワーキング・ハイポセシスを必要とすることを論じ、「かゝる一般の見とほしと問題に接近する一つの角度とがなければ、ユネスコは斷片的で脈絡のない行動や自己矛盾的行動をすら企てる惧れがあり、いづれにしても、一體となつた普遍的諸原理に對する信仰から生ずる指導と感激とを缺くであらう」と書いてゐるが、この言葉の中にも彼がユネスコを如何に解し、如何に動かし、ユネスコに何を求め、何を興へようとしてゐるかが感じられる。彼はまた言つてゐる。「ユネスコはその名稱からいつて二組の目的に仕へるものとなつてゐる。第一にそれは國際連合の諸目的に奉仕せねばならない。第二に最も廣い意味における教育、科學、及び文化のあらゆる局面を育成促進せねばならない。」これは前掲のユネスコ憲章第一條第一項をそのままパラフレーズしたものであることは勿論であるが、少くとも感じ方の上で、ハックスレイ獨特のもので出てゐると言へるかも知れない。

とに角、ユネスコの行政長官である事務總長ジュリアン・ハックスレイの年來の持説である科學的人間主義は、ユネスコの思想的理解のため

に我々が顧みてみなければならぬであらうと思ふ。

(一九四八・二・二六)

附記 この稿を草するに當つて其輪三郎氏著「ユネスコの解説」及び雜誌「世界」所載「ユネスコ、その目的と哲學」に負ふ所が尠くない。記して著者並に譯者に感謝の意を表する。



# 學園

## 新制大學認可

豫て申請中の新制大學設置は大學設置委員會の答申に基き三月二十五日附で文部大臣から認可があつた

## 新制大學第一回入學式舉行

本年度より新制大學として發足した本學は、面目を一新して新たな構想を抱き、充實せる陣容を以て、新日本の青年學徒を教育する教養の一大學府として出發することとなつたが、記念すべき第一回入學式は豫科終了生、専門部工專卒業生、豫科、専門部、工專よりの移入學生の外に他校よりの入學生等約三千を迎へて山の櫻花咲く四月十七日午後一時より豫科講堂に於いて嚴肅裡に舉行された。學長は新入學生に對し、眞理探求の道、形成的激變期に於ける學生の覺悟について訓示し、終つて學生總代竹村君の宣誓あつて、意義深い式を閉じた。

## 第二十二回卒業式

舊制大學學部第二十二回卒業式は三月二十二日午前

十時より舉行せられた、卒業證書授與の後、岩崎學長の式辭、續いて森戸文相、赤間大阪府知事、廣瀬府會議長、吹田市長其の他校友總代の祝辭あり、學生各部總代の答辭あつて、新學士の前途を祝福しつゝ閉式した。

## 宮島綱男氏

### 理事長に就任

前理事長松本靜史氏廣島最高裁判所長官に就任され理事長を辭任されたため、一月七日の理事會で理事宮島綱男氏が新に理事長に就任された。

## 關西大學文化科學研究所開設

曩に設立された關西大學人文科學研究所を、時代の進展に伴ひ發展的に解消し、新に關西大學文化科學研究所の開設については昨秋より設置委員會の幾次に亘る審議を経て、此の程其の大綱を完成したので、茲に待望の文化科學研究所開所式は昨年十二月十四日千里山豫科會議室に於いて財團理事、學部、豫科、専門部教授出席の下に盛大裡に舉行せられた。

關西大學文化科學研究所は、新しい日本の文化育成發展の一般的理想に應へて、文化一般に亘り廣く且深く其の基礎的研究を遂行すると共に其の研究業績の展開的側面として諸種の文化事業を企畫實行して、大學文化の昂揚を期すると共に新しい文化の形成に寄與せんとするものであつて、所員各位の研究勞作は期して待つべきものがある。

## アメリカ圖書

### 連合軍の好意による寄贈

先般連合軍民間情報局の好意により最近に於けるアメリカの著名圖書が各方面に寄贈せられたが、本學も亦此の恩典に浴し、各種部門に亘る専門書及一般讀物多數寄贈せられ、圖書館に於いて一般の閱覽に供せられることとなつた。政治、法律、經濟、社會、哲學、心理學、教育學、數學、物理學、地質學等極めて廣範な分野に亘つて居り、最近に於けるアメリカの事情及學問の發達を窺ひ知るに充分な資料が豊富にあつて此の方面研究の學徒を益すること多大なるものがあらう

## 讀書と教養の會

### 圖書館で開催

本學新制大學として發足を記念し、併せて學生の教養に資するため、左記の通り講演會と圖書展覽會が開催された。

○「讀書と教養」講演會 六月七日(月)豫科講堂に於いて

一、開會の辯 森川圖書館長

一、名著になるまで 天野圖書課長

一、讀書と教養 堀文學部長

一、所感 岩崎學長

一、圖書館の利用法 木寺圖書館司書

一、閉會の辭 森川圖書館長

○教養圖書展覽會 六月八日(火)より十一日(金)まで四日間圖書館閱覽室

第一部、米國政府寄贈英文圖書及び雜誌

教科書約九十種、百二十數冊、ポケットブック約

七十種、雜誌十七種約六十冊

## 第二部、教養必讀の世界名著

古今東西の名著百二十數種を選び、その原著、歐譯邦譯、解説書等合せて二百六十餘冊を年代順に配列し、各書に略解を附けた。

## 第三部、關西大學出版物

關西大學學報、關西大學研究論集、五十年史、一覽、名簿、學友會、研究會、其他の各種雜誌。本學關係の寫眞十數種、卒業記念寫眞帳

其他 一八〇〇年以前西洋古版本の數種陳列。學者、思想家、文人の肖像約四十點を展示。大正十一年より昭和六年に至るまで本學來訪の内外名士の一覽表。

## 文化祭舉行

新制大學發足後第一回文化祭は六月一日、二日の兩日盛大に催された。第一日には天六學舎講堂に於て、午前は新入生歓迎のプログラムが進められ、午後は中谷、矢口、今西、大小島各部長次長によつて夫々専門のうん蓄を傾けた講演後、花柳祿舞踊團の贊助出演あつて盛大裡に終り、第二日は朝日會館に於て、辯論大會、續いて本學輕音楽部の演奏、演劇研究部聲雲座の演劇二種目、本學尺八部の演奏後、三度舞臺は演劇に移り、最後に朝日奈陸絃樂四重奏團及伊達純氏のピアノ彈奏等多彩なるプログラムに、意義深い文化祭を盛會裡に終了した。

## 鑄方教授農學博士に

本學専門部鑄方貞亮教授は五月十二日附を以て、京都大學より農學博士を授與せられた。論文は「日本古代家畜史」である。

## 推薦校友

關西甲種商業出身の新倉武一氏(新國劇辰己柳太郎氏)は、財團法人關西大學密附行爲第三十條により、昭和二十三年十一月二十一日附校友に推薦された。

## 教育後援會の設立と活動

今般新制大學の發足に當り、新しく關西大學教育後援會が發足することとなつた。從來の各學部科別を解消し改めて學園を統合した新制度で、學生の修學教養の向上と福祉とを顧るべく、學校と協力して積極的に援助せんとするもので、其の活動成果は大いに期待される。

四月十五日の委員會にて會則及役員が決定せられ、十八日の役員會にて運営に便なる爲各部を設けて、其の擔當責任者を定め、又顧問、幹事長、幹事の決定を見た。五月二十日、二十一日豫科講堂、天六學舎に於て夫々新入學生父兄會催され、常任委員の選定あり、續いて五月二十九日、六月十日の常任委員會に於て五月十八日の役員會での議案たる文化祭行事への積極的援助、學生ホールの建築、大學前驛の屋根建築促進等の問題を審議可決し、早速實行に移すこととなつたが又後援會使命遂行上、學生一般の輿論及希望を聴取し、夫を將來の運営に反映せしめるべく、五月十三日十八日、二十四日及六月九日に夫々役員と學生代表と懇談するところあつた。數次に亘る役員會、常任委員會共に顧問初め役委員の出席多數にて常に盛會たるは大に意を強うするところ其の發展を望んで止まな

い。  
現在迄審議可決せる議案並に其の實施業績の主なるものを擧げると左の通りである。

## 議案 實施

一、教室へマイクローフオンの設置 六月二十七日を以て完了

一、學内ベンチ設置 現在見積中なるも出來次第實施  
一、大學前驛屋根の建築 本年七月末完成

相談役 上田 穰

顧問 宮島綱男、岩崎卯一、春原源太郎、中谷敬壽、矢口孝次郎、堀正人、今西庄次郎、木村健助

幹事長 山本順應

幹事 池田信之助、(常任) 城内俊直、(常任) 常友正司

會長 村田守三郎

副會長 尼崎愛之助、櫻本信雄、廣岡恒次郎

總務部 (部長) 尼崎愛之助、(副部長) 山中茂弘

足立馬之助、(部員) 石井壽一、田村正三郎、谷川芳三郎、中西恒平、山本英二郎、佐藤辰夫、志村三次、菅野春三

事業部 (部長) 櫻本信雄、(副部長) 市岡保徳、大石雄一郎、(部員) 井村幾太郎、出海政一、若宮惣次郎、片川徳三郎、高田開二、辻金哉、鶴田武、仲西戒三、中井淳一、藏田英一、松浦孝一、松田安太郎、淺野嘉明

菊池壽雄、來住憲次郎、森居幸一郎

經理部 (部長) 廣岡恒次郎(會計委員) 藤波一治

三宅正夫(部員) 柳生熊吉、柳原豊次郎

委員 五十嵐英一郎、岩脇松次郎、石黒主之助、石脇吉之助、堀田岬一、逸見郁一、千本行應、梶山秀夫、柏原平太郎、吉田順治、吉田太良松、田崎政光、村西米太郎、國枝治



郎、奥本修三、前田幸男、酒井有好、藤野茂次郎、遠藤義一、寺島宗一郎、赤松茂、佐合善太郎、阪野伊三郎、菊川博、木島利三郎、結城務、島田貞雄、島田喜平、東田繁男、森本春喜代

### 擴充基金寄附者芳名

(六月三十日現在原簿順)

一、金貳萬圓也 鐵紡澁川支店次長 牧野直隆

北原元茂、三好萬次、西村治三郎、中井淳一 谷岡 登

一金五千圓也 大野矩雄

一金壹千五百圓也 御堂河内四市、小島龍太郎

一金壹千圓也

田中藤作、長澤健一、御立信郎、志野覺治郎、推尾普太郎、松尾高一、住田敏夫、鈴木武夫、岩窪一雄

一金五百圓也

中場彌太郎、荒賀勝平、森田文一郎、藤田只勝、近藤龍雄、三宅徳嗣、西田健、吉本房造、一本正光、大塚俊勝、鹽見秀男、泉隆三、畑悦二、横山勝、寺田博、伊藤武男、加古撤次郎、前田卯吉、馬場五男、日向幸藏

一金貳百五十拾圓也 本郷藤一郎  
一金貳百圓也 佐藤 元之

### 關大一中P・T・Aの

### 結成と活動

新日本の革新的新教育制度に應じて、殊に初級中學

校に於ける所謂P・T・Aの結成と其の活動が積極的  
に要望せられて居る今日、關大一中は早く三月二十九  
日に結成準備會を開催して以來數次に亘る屈折を経て  
五月末關大一中P・T・Aとして發足した。

關大一中P・T・Aは家庭と學校と生徒との福祉増  
進を圖るため、動的なプログラムに依つて民主的教育  
を推進しようとの目的を以て、家庭に對する責任及學  
校をよくする責任等を強調し、家庭、社會、學校各教  
育の綜合力を通じて生徒の民主的教育の徹底を助成せ  
んとするものであつて、會の運営は全く民主的に行わ  
れる。

企畫事業第一回試みとして、五月三十一日(月)に  
基金募集の爲、エンタツ、アチャコ劇團、花柳祿譽舞  
踊團贊助出演の演劇會が、天六學舎講堂に於て華々し  
くも亦明朗に開催されたが、當日の觀客實に無慮千數  
を數へ極めて盛大であつた。

七月以降のプログラムに就いては目下研究企畫中  
であるが、父兄各位の熱心な御援助を得て本會も益々發  
展せんとしてゐる。

役委員は別項の通りである。

### 役員

會長 大西五十二、(副會長) 井上フジ、(庶務  
幹事) 山本チカヲ、吉川教諭、(會計幹事) 西川博  
子、(會計幹事補助) 三島教諭

### 委員

プログラム委員 國府三郎(委員長)、玉置吉三郎、  
榎本好重、  
會計監査委員 高橋好一郎、(委員長) 納田絹一、  
高山今造  
教室委員

一年

### 二年

吉田徳治、關靜子、下野豊彦、中野キクエ  
高橋節治、山下富枝、植田正義、村山ノブ  
吉田八郎、神屋數アヤ、石田徳治郎、吉永  
重美、

### 三年

矢野吉曉、中村タキノ、東城英彦、桑原利  
子、岡本益吉、澤田晴子、林田卯之助、中  
村ヨシノ、松本英明、田中貞榮、

采女嘉一、白井サク、伊藤鐵造、中村彌久  
吉岡象雄、壺谷なつ

### 教職員慰勞演劇會

大學では二月上旬より四月中旬に亘り新制大學の發  
足に伴ひ教職員の努力は一段と多忙を極めたので、其  
の勞苦を稿ふ爲、千里山及天六兩學舎の教職員全員を  
四月二十四日及二十五日の兩日に亘り道頓堀中座に招  
待された。

### 正誤訂正

前號第(二二六號)所載中左の箇所一部訂正及記  
載洩がありましたので、茲に訂正します。

第二〇頁 財團新役員就任欄中

顧問 村尾 靜明氏(記載洩)

同 武田藏之助氏(記載洩)

第二二頁 職員録中

顧問 法學博士 武田 宣英氏(博士號記載洩)

經濟學部教授 河村 宣介氏(記載洩)

第二三頁 専門部教授 梶原 秀男氏(記載洩)

以上

# 新制大學各學部

## 職員及學科目擔任表

### 法學部

學部長	教授	中谷	敬壽
次長	教授	和田	豐二
教授			
(同職中の氏名は就職の順に依る)			
社會學、政治學、政治哲學	法學博士	岩崎	卯一
憲法、行政法、法理學		中谷	敬壽
民法、佛法、法學演習		木村	健助
民法、英法、法學演習		和田	豐二
國際法、外交史、外國政治書、政治學演習		川上	敬逸
民法、佛法、法學演習、法學概論		福島	四郎
刑法、英法、刑事學、法學概論、法學演習		植田	重正
民事訴訟法、佛法、法學概論、法學演習		山本	戶克己
助教授			
民法、英法、法學概論		明石	三郎
行政法、法學演習		櫻田	譽
員外教授			
社會法、刑事訴訟法		浪江	源治
商法、		西本	寬一
講師 (順序不同)			
國際政治學		宮島	綱男
法學實務		春原	源太郎

### 文學部

法學實務	阿部	甚吉	
政治學概論、外國政治書	木下	丹	
行政法、憲法、地方自治	渡邊	宗太郎	
法學博士	田中	周友	
西洋法制史	齋藤	武生	
國際私法、佛法	大森	忠夫	
商法	大森	忠夫	
日本法制史、法律思想史	猪熊	兼繁	
國法学、憲法	大石	義雄	
商法	國哉	胤臣	
政治學史、政治史	森	義宣	
行政學	足立	忠夫	
信託法	大阪	谷公雄	
刑事訴訟法	毛利	與一	
學部長	教授	堀	正人
次長	教授	大小島	眞二
教授			
(同職中の氏名は就職の順に依る)			
英米詩文學及散文學	堀	正人	
國文學 (近古) 國文學史	飯田	正一	
英米劇文學、演劇映畫概論	山田	松太郎	
西洋哲學史 (近世)、哲學概論	大小島	眞二	
中國文學作品研究、東洋文學	高橋	盛孝	
英語、英語史	八島	治一	

### 助教授

國文學 (上古及中世)、日本文學	青木	登
獨佛文學、獨乙語	上道	直夫
日本史、東洋史	橫田	健一
英米詩文學、英語	廣瀬	拾三
國文學演習、日本文學	金子	又兵衛
文學概論、佛語	中井	駿二
心理學概論、心理學、倫理學	和田	陽平
教育學概論、倫理學概論	田中	照
中國哲學史概論、東洋文學	壺井	義正
英米散文學、英語	進藤	浩二郎
英米詩文學、英語	梶原	秀男
佛蘭西語	三木	治
哲學概論、西洋哲學史 (古代及中世)	岡野	留次郎
教育心理學、心理學、論理學	遠藤	汪吉
助教授		
獨乙語	前田	敬作
物理學	西村	一郎
員外教授	兼任	
國文學 (近古) 文學博士	類原	退藏
講師 (順序不同)		
獨乙語	中村	恒雄
東洋史	佐藤	長
西洋史	會田	雄次
日本文學	榊原	美文
英語	小川	忠藏
生物學	田中	英雄
佛蘭西語	土居	博
英語學概論	大塚	高信

### 經濟學部

羊學概論	文學博士	井島	勉
言語學、ラテン語	文學博士	泉井	久之助
國文學 (中世)	山脇	毅	
國文學 (中古) 文學博士	澤瀉	久孝	
中國文學作品研究	藤澤	章次郎	
科學概論	杉原	雅	
中國文學史概論	石濱	純太郎	
印度哲學史概論	高島	寬我	
思想史概論	服部	英次郎	
宗教學概論	文學博士	片山	正直
國文學 (近世)	吉永	孝雄	
國文學 (近古)	秋本	吉郎	
美學概論	上野	昭夫	
學部長	教授	矢口	孝次郎
次長	教授	三谷	友吉
教授			
(同職中の氏名は就職の順に依る)			
經濟史、經濟史		森川	太郎
特殊研究 演習			
經濟學論、金融經濟論		森川	太郎
經濟政策、市場論、演習		今西	次郎
經濟學史、經濟原論		三谷	友吉
特殊研究、演習			
財政學、財政學		藤谷	謙二
特殊研究、演習			
經濟學概論、國際經濟論		中川	庸太郎
英語講義、演習		澤村	榮治
經濟學概論、社會思想史			

統計學、農業經濟學、  
獨書識讀 高木 秀支

助教授

貨幣論、銀行信託論、英書講演  
兼任 安田 信一

工業經濟學、經濟政策  
兼任 松原 藤由

經濟學概論、英書講演  
兼任 杉原 四郎

講師 (順序不同)  
日本經濟史、經濟地理學  
農學博士 鑄方 貞亮

簿記概論、原價計算・工業簿記  
富山 忠三

經濟哲學  
加藤由次郎

經濟原論、經濟學博士  
堀 經夫

保險經濟學、社會政策  
近藤 文二

農業經濟學  
山岡 亮一

經營經濟學特殊研究  
丹波康太郎

商業數學  
堀江 義廣

統計學、經營經濟學特殊  
岡部 利良

社會思想史  
松田 勇

社會學  
大道安次郎

商學部

學部長 教授 今西庄次郎

次長 教授 賀屋 俊雄

教授 賀屋 俊雄

教授 賀屋 俊雄

教授 賀屋 俊雄

教授 賀屋 俊雄

教授 賀屋 俊雄

教授 賀屋 俊雄

教授 賀屋 俊雄

教授 賀屋 俊雄

經濟原論、金融經濟論  
兼任 森川 太郎

經濟政策、市場論  
今西庄次郎

財政學  
藤谷 謙二

商品學、貿易實務論、  
商業英語、佛書識讀  
賀屋 俊雄

英語  
兼任 山口 辰雄

經濟政策、國際經濟論、  
佛書識讀、演習(經濟學部)  
正木 一夫

助教授  
貨幣論、銀行信託論  
安田 信一

經營經濟學、會計學總論、  
英書識讀  
植野 郁太

講師 (順序不同)  
經濟地理 農學博士 鑄方 貞亮

簿記概論、原價計算、  
工業簿記  
富山 忠三

商業英語  
水谷 揆一

保險經濟學、社會政策  
近藤 文二

經營經濟學特殊研究  
丹波康太郎

商業數學  
堀江 義廣

統計學、經營經濟學特殊  
岡部 利良

商品學  
河村 信一

備考  
右表は職員表を主としたもので擔任  
學科は夫々所屬學部の學科及一般教  
養科目を記載してあつて、所屬外學  
部の授業擔任の學科は記載してな  
い。

新制大學各學部授業科目(一般  
教養科目及専門科目)及單位表

備考

- 一、表中の數字は單位數を表わす
- 二、一單位とは一週一時間十五週間  
の講義を謂ひ一年を三十週とみる
- 三、體育及一般教養科目は各學部共  
通である
- 四、學生は四年間に一般教養科目に  
ついては四十單位以上、専門科目  
については八十單位以上及び體育  
四單位を取得しなければならぬ
- 五、學生は先づ一般教養科目から履  
修し(其期間は概ね一ケ年半であ  
る)、其の後専門科目に入るのが  
原則である

一般教養科目

一、人文科學	(四二)
哲學	二
倫理學	二
論理學	二
心理學	二
教育學	二
歷史學(日本史)	二
歷史學(東洋史又は西洋史)	二
人文地理	二
日本文學	四
東洋文學	四

外國語(英語)

外國語(獨語又は佛語)

外國語(英語)	八
外國語(獨語又は佛語)	八
社會學概論	二
政治學概論	二
法學概論	二
經濟學概論	二
統計學概論	二
三、自然科學	(六)
數學	二
物理學	二
生物學	二
計五八	

體育

體育(講義實技)

體育(講義實技)	四
法學部専門科目	
倫理學(東洋、西洋)	四
日本法制史	四
西洋法制史	四
法律思想史	四
社會思想史	二
政治史	四
外交史	四

政治學史	四
政治學	四
國際政治學	二
政治哲學	二
憲法	二
行政法第一部(總論)	四
行政法第二部(各論)	四
國際法(平時及戰時)	四
國法学	四
行政學	四
地方自治	四
刑法(總論・各論)	四
刑事訴訟法	四
社會法	四
民法第一部(總則・物權)	四
民法第二部(債權總論・各論)	四
民法第三部(親族・相續)	四
商法第一部(總則・會社・商行爲)	四
商法第二部(手形・海商・保險)	四
民事訴訟法(判決手續)	四
民事訴訟法(強制執行・破産)	四
法學演習	四
政治學演習	四
外國法(英・獨・佛法の内)	四
外國政治書講讀(英・獨・佛)	四
國際私法	四
刑事學	二
信託法	二
法學實務	二
新開學	二
社會政策	二
經濟原論	二
財政學	四

經濟政策	二
經濟史	二
金融論	二
會計學	二
簿記學	二
商業數學	二
計	一四六
文學部專門科目	
國文學科	
一、第一類	
國文學史	四
文學概論	二
國語學概論	四
作品研究	
上代文學	四
中世文學	四
近古文學	四
近世文學	四
近代文學	四
作品研究	四
中國文學	四
演習	四
(一)	四
(二)	四
卒業論文	一〇
計	五二
二、第二類	
思想史概説	四
中國哲學史概説	四
中國文學史概説	四

日本漢學史	四
日本經濟史	四
哲學概論	四
美學概論	四
教育學概論	四
教授法	四
教育心理學	四
演劇映畫學概論	四
獨佛文學	四
英文學作品研究	四
英語學概論	四
新開學概論	二
計	六二
英文學科	
一、第一類	
英文文學史	四
英語史	四
文學概論	二
英語學概論	四
作品研究	四
英米劇文學	四
英米詩文學	四
英米散文文學	四
演習	四
英米劇文學	四
英米詩文學	四
英米散文文學	四
ラテン語	二
卒業論文	一〇
計	五二

思想史概説	四
哲學概論	四
美學概論	四
教育學概論	四
教授法	四
教育心理學	四
演劇映畫學概論	四
獨佛文學	四
國文學作品研究	四
中國文學作品研究	四
英語學概論	四
新開學概論	二
外國語(獨又は佛語)	四
實用英語	四
計	六二
哲學科	
一、第一類	
哲學概論	四
論理學	四
哲學諸學科	四
倫理學概論	四
心理學概論	四
社會學概論	四
西洋哲學史概説(一)	四
西洋哲學史概説(二)	四
東洋哲學史概説	六
哲學特殊講義	四
哲學演習及講讀	四
卒業論文	一〇
計	五二

二、第二類

思想史概説	四
美學概論	四
宗教學概論	四
教育學概論	四
教授法	四
教育心理學	四
演劇映畫學概論	四
文學概論	二
法理學	四
政治哲學	二
社會學特殊講義	二
經濟學特殊講義	二
科學概論	二
新理學概論	二
ギリシヤ語	二
ラテン語	二
外國語(獨又は佛語)	四
計	五二

備考

第一類科目は必修科目で、第二類科目は選擇科目である。

經濟學部専門科目

一、第一類

經濟原論	四
經濟史	四
經濟政策	四
財政學	四
統計學	四
國際經濟論	四

二、第二類

金融經濟論	四
外國經濟書講讀(英・獨・佛)	八
經濟學演習	四
計	四四
經濟原論特殊研究	二
經濟史特殊研究	二
財政學特殊研究	二
經濟變動論	四
國際金融論	四
經營經濟學	四
工業經濟學	四
商業經濟學	四
農業經濟學	四
交通經濟學	四
市場論	四
貨幣論	四
銀行信託論	四
保險經濟論	四
會計學總論	四
簿記概論	四
日本經濟史	四
日本產業論	四
經濟地理學	二
外國經濟事情	二
經濟哲學	二
社會學	四
社會政策	四
社會思想史	四
新聞學	二
憲法	四

備考

専門科目については第一類中より外國書講讀及經濟學演習を含んで八科目以上其の外第一類、第二類を通じて七科目以上を選擇し合計十五科目以上、單位については八十單位以上の試験を受けることが必要である。

商學部専門科目

一、第一類

經濟原論	四
經濟史	四
經濟政策	四
財政學	四
統計學	四
國際經濟論	四
金融經濟論	四
經營經濟學	四
會計學總論	四
外國書講讀(英・獨・佛)	八
商學演習	四
計	四八

二、第二類

農業經濟學	四
工業經濟學	四
商業經濟學	四
經濟變動論	四

備考

専門科目については第一類中より外國書講讀及商學演習を含んで九科目以上其の外第一類、第二類を通じて六科目以上を選擇し合計十五科目以上、單位に於いては八十單位以上の試験を受けることが必要である。

國際金融論	四
經營經濟特殊研究	二
會計學特殊研究	二
簿記概論	四
工業簿記原價計算	四
經營統計學	二
貿易實務論	四
貨幣論	四
銀行信託論	四
保險經濟論	四
交通經濟學	四
市場論	四
社會政策	四
商品學	二
經濟地理學	二
外國經濟事情	二
公企業論	二
商業數學	四
商業英語	四
新聞學	二
憲法	四
民法	四
商法	四
社會法	二
計	九六





## 隨筆 むかしの富くじ

靜湖生

民俗としての富くじには地方によつて色々變つたものがある。私なども子供の時分氏神の祭禮に餘興として「富くじ」と稱して社前に集つた子供や大人にまじつて「御信心次第」と呼びながら「みくじ箱」のようなものを振つて散布される紙札を争つたことがある。これなどは勿論金錢を賭するものではないから富くじではないが、昔の「富くじ」のことを少し書いてみる。

### 一、御免富の起源

賭博としての富を禁じながら一方で公許の富くじが許されてゐることは餘程古いものと考へられるが——御免富の起源については江戸時代既に色々な説が出て居り後には岡田淺太郎博士、幸田友成博士等も論じて居られる——濱松歌國の「攝陽春觀」には「いつの頃より始まりや詳ならず」と言つてゐる。

富と呼ぶことの語源について寺門靜軒の「江戸繁昌記」には「貧乏人之を得て暴かに富む、蓋し此れ其の名する所以」と言つてゐるが、これは一寸うがち過ぎてゐるようである。富くじのことを江戸時代に「富突」と稱したことは富札を箱に入れて錘で突いて上つてきた札をもつて、くじに當つた者を定めたことから言はれたものである。また富くじのことは「福引福富其外品々名目を附」(天保集成)けんたく(謙徳、見徳)隱富(影富)等種々の名稱が用ひられ、文化文政の頃は第付(聚づけ)とも稱した。之等は非公認富くじである。

### 二、富くじの性質

「富突」が賭博の一種であつたことは幕府の禁令中にも「とみつき講と名付博突がましき儀」とあるによつても明かである。官許の御免富も富くじの一種である以上その射倖性は同じことであるが、官許の故を以て一定の取締の

下に公認されてゐた。

幕府は富くじを賭博として禁じながら何故寺社の御免富だけは官許を與へたのであらうか。幕府の財政窮乏は「由緒有之寺社等困窮の餘公儀御厄介」を申出られても之を救済するに途なく、また寺社自らもその朽廢に對して修葺の力なく、その爲め「公儀へもたれざる様」「寺社困窮之餘、不得止事」として許したのであるが、原則として場所は江戸大阪に限られ——其後實際には尾州熱田、紀州熊野、南都興福寺等全國に行はれた——富の金高も「由緒有之寺社の分一之富五十兩、由緒薄き寺社の分三十兩迄」とか富興業年限等に制限を加へてゐる。

然し實際は寺社修葺に名を藉る富興業によつて寺社の収益を蝕つたもので熊野三山貸付金の如きは各藩に對する重要な金融機關であり、その財源は富興業によつて得たものであると言はれる。幕府の立場はやむを得ず許したものとなつてゐるが御免富の最初のものであると言はれてゐる享保十五年仁和寺御免富の「町年寄より年番名主へ」の觸書中に「町々不殘様可被申達候」とある程である。

### 三、富興業の收益

富興業を行ふ寺社は「富突減方」「つきべり」といつて一回の富興業によつて、どれだけ利益を得るか。兒玉洋一氏の計算によれば熊野三山萬人講の如きは富札賣上総額の六割三分に當る三萬五、六千圓になると言つて居られる。

寺社は當せん者から別に奉納金と稱して金高に應じて何割かを納めさせる。納めるといふよりも天引して渡したのである。その割合については寺社により異つたものと考へられるが、江戸三宮の一と言はれてゐた谷中の感應寺の百兩富は二割であつたともいわれてゐるが「八十九兩三分のとくがつき」といふ川柳があるので、これによると、元手が一分、つきべりつまり寺の差引く分が一割で百兩富に當つても差引徳になるのは八十九兩三分といふ計算になる。また千兩富に當つた場合にも喜多川守貞の「近世風俗史」によれば「百兩は修補の料と號して催主に止め又百兩を札屋に頒ち其他諸費と號して四、五十兩を除き其實を得る所大略七百餘金也」とある。

#### 四、富くじの繁昌

「江戸繁昌記」には「谷中感願寺、目黒泰嶺山、湯島菅公廟謂之都下三富」とあり、今井卯木氏の「川柳江戸砂子」によれば文政六年以後は江戸市中三十一ヶ所の多きにのぼり一ヶ月二十四、五回も行はれたと言はれるが、「徳川禁令考」によれば天保三年取調に全国で七十三ヶ所も行はれてゐたことになつてゐる。

富くじの規模についても五十兩富から千兩富まで様々であつた。従つて富くじの札數も、その規模に應じて大小様々となるのは當然で千枚位から多いのは二十萬近くも發行された例がある。

斯くて富興業が盛になると今も昔も同じこと興業的價値をねらつた工夫がこらされる。例へば富の札を福祿符恵とか松竹梅または十二支に分け、寺院の富には七の數字を重視し七は七難即滅、七福即生の意を表すものであると「難波鑑」に書いてある。或は富興業の時間に特別な關心をねらつたものとしては、大阪堀江和光寺の如きは夜丑の刻富興業とあるが、眞夜中の富興業などそのすごい場面が想像される。文政九年四月今宮戎社内の富くじは趣向をかへて「長さ一寸五分巾五分計りえ抽子木を制符にいたし好み文句書入候事故事の外に人氣富興業大造廣普請に候事」とある。この時の札數十八萬枚、百五十番突留金八百兩とあるから大興業であるが、右にいふ「好み文句」とはどんなものかといふと第一番の富「えびすがむいて南紀黒平天」といふようなものでこれが當時大變な人氣をよび、富興業が濟むと、この文句を寫した半紙とお本が一冊二文で賣出されたといふ。

#### 五、大阪富くじの特徴

明和、安永、天明の頃江戸大阪市内の各所で富興業の札を賣る店を「札屋」と稱した。大阪ではこの札屋が渡邊筋に集まつてゐたといふので「渡邊の大江の岸と讀むなりし歌の名所もいつしかに富の札屋に埋もれて往來たへぬ渡邊筋」と戯文に書かれた程である。富興業の行はれた場所も、曾て木田溪花坊氏が「三味線草」に「大阪附近では堺の宿院、神明社、大寺等の當時の富札が現在多く散見する。大阪の町では堀江阿彌陀池、四天王寺、生玉神社、座

摩、高津宮、天満天神等」を例示して居られるが「浪華百事談」には大和信貴山の福富會があり「菅居家古文書」には「免富被仰付」とあるから河内譽田八幡に於て行はれたことも明かである。生玉の富の如きは富興業場が常設されてゐたといはれるし、天満天神の富は「多人数の見物誠に濱より鳥居筋社内透間もなき」程であつたといわれてゐるから大阪の富興業の繁昌さうかがわれる。

さてこれ等大阪で行はれた富興業の記録を見て感ずることは、江戸三藏山増上寺、宇佐八幡御免富、熊野三の山富興業、京相國寺の富などと大阪を中心とした神社に於て多く他地方の富が出張興業をしてゐることであり、更にまた「江戸増上寺富京都にて興業之札於當地賣捌き御免之御觸」などと、江戸の富が京都へ出張興業して、その富札が大阪で賣捌かれてゐるなどを見ても當時の大阪の經濟的實力が支配的であつたことが察せられる。

#### 六、富くじの弊害

富くじを賭博としてみる場合、それが許されないことは言ふまでもないが官許の御免富についても一般大衆の射倖心を唆り、富興業として各場所に入集めする結果幣害の度も大きかつた。

このことを南畝は「講習餘録」に、まづ財用を輕んずる氣風を醸成すること「國家の大事」であるとし、他の人がくじが當つた話をきくと自然騒ぎ立てるやうになることは「利欲の心になり家業をしろなし、めんめん其利を得んと欲する」ため身を慎むべきことを忘れ、當らなかつた者は今度こそはと「此次なんとしてもつかみとることあるべきと面々にいらざることに智恵つき」風俗を害すること大であると言つてゐる。

のみならず御免富の流行は、そのことによる直接の弊害だけでなく、自然「かげとみ」と呼ばれる無免許富の流行を盛にし、甚しきは一文二文のかけとみ、前垂無識といふようなものゝ行はれるに至つたことは見逃すことのできないことである。

其他富くじと迷信、明治初年の仕法講と富くじ等についても興味ある種々の話題もあるが、別の機會に譲る。

登 高 賦

秋日登神戸市青山上瀟望作歌九首

堀 正 人

棚ぐもり幾重いくへの下したに起伏おさふして柴原な如なせり播磨はりまの國は  
 播磨野はりまのを限りて遠いき幾嶺いくね岳たけに秋雲あきぐも暗く夕日ゆふひ洩はりたる  
 夕ゆふつ日に雲脚くもた垂たりて匂ほへるは雨あめか降ふるらし播磨はりま遠山  
 綠き眼まなこき印南いんなん大野おほののいくところ池いけありて光ある眼まなこのごとく  
 雲洩くもはれの西日せいひの光海ひかりにありちりほひて黒くろし家島いえじま島群しまぐら  
 こゝにして小豆島あづまじま見ゆいや遠とほき讃岐さぬきの崎さきの並山なみやまも見ゆ  
 この目路めぢを幾重いくへ織つぎてか國土くにつちははたてとならむあはれ狹國さくくにを  
 脚下あしもと直ただちに神戸市かふべを望のぞむ  
 眼まなこ下の燒やけたる街まちのきたなきを秋あきの曇曇りの隠かくすともなし  
 おぼほしき秋あきの曇曇りやアメリカあめりかの飛行機ひこうきわたる音ねもこそせね

勤 恩 餘 瀝

關西工業專門學校長

巴山城學人 吉 本 一 朗

春 山

春山はるやま戴たい雪ゆき挂か晴は曦き。八はち朶た玲れい瓏たう白はく玉ぎよく肌み。無な復ふく戰せん雲うん來らい礙えい目め。  
 分ぶん明めい仰やう見けん太たい和わ姿さ。  
 戊ご子し新しん年ねん  
 浮う雲うん斂れん盡じん麗れい山さん河か。早はや起き軒けん頭とう揭てつ旭じやく旗き。喜き見けん年ねん頭とう新しん氣き象さう。  
 盆ぼん梅ばい覆ふく郁よく兩りやう三さん枝し。  
 迎むか來らい六む十じゆ七しち年ねん春しゆん。凌りやう壯じやう猶なほ餘あま意い氣き新しん。先せん樹じゆ邦ぱう家か興きやう復ふく計けい。  
 辛しん盤ぱん椒じやう酒しゆ不ふ憂う貧ひん。  
 丁てい亥がい歲さい晚わん  
 耳みみ順じゆん看かん過か第だい六りく年ねん。遭そう逢ほう戰せん禍か自じ相さう憐れん。時じ艱げん未み許しよ髮はつ林りん寮りやう。  
 尙なほ役やく衰すい軀きう掉てう教きやう鞭べん。  
 今いま歲さい將じやう除じゆ臚りよ老らう嫗いん。迎むか新しん又また欲よく踏たふ荆しやう途と。臘りやく梅ばい一いつ樹じゆ領りやう吾ご意い。  
 先せん放はう幽ゆう香かう書しよ屋いつ隅こ。



學

友

### 大阪大學高專ユネスコ 連盟と關大支部

大阪ユネスコ協力會の發足に伴ひ、大阪大學高專ユネスコ連盟は十二月二十日常任委員校として關大、阪大、大商大、大高、府女專、樟女專の六校が選出せられ、一月十日には常任委員會で互選の結果、本學學生寺西武君が副委員長に選定せられた。

二月二日、及三月九日夫々學生有志に依り關大支部結成の協議行われ、規約草案及運動方針の大綱を審議したが、益々多方面に呼かけて、關大支部の育成發展と共に大阪大學高等ユネスコ連盟の促進に邁進する。

### 關西學生自治連盟

二月一日日本學天六學舎にて全關西大學高專四十數校參集して開催、意見交換の後規約の審議、學生運動の在り方等について討議し盛大裡に閉會、尙本學が常任委員校に選出せられたのは、私學として其の意義の重大なるを痛感する。

### 辯論部冬季遊説

關西大學辯論部員五十一名は十二月十五日より十八日まで少年防犯運動を中心に冬季遊説を行つた。此度は少年審判所長・學友・校友の方々の絶大なる御支援を得て豫想以上の成果を挙げた。例へば、奈良班の遊説において、實施の七校とも熱心なる聴衆に溢れ、至るところすしり泣きの感激の場面を現出したのなど記憶に新たなものがある。

### 學部「厚生部」の活動

學部學生の厚生事業は厚生部長玉田君を初め十數名の諸君の活躍に依り着々成果を擧げて居る、其の活動の一端を擧げると、西川、田中君等の努力に依り書籍部を設け出版元と直結して新書、雜誌の優先配給を行ひ亦給品部を設けてノート、原稿用紙、文具等の販賣を計り、特に田中君等が強力運動したのは全大阪學生協同組合の設立であつて、既にC、I、E及府、市等當局の後援を得て二月七日より華々しく發足してゐる。

### 關西大學哲學會

涼風そよぐ初夏五月三十日豫科講堂に於いて關西大學哲學會發會記念講演會が催された。行爲現象學の大家岡野富次郎教授の「習慣の自由について」及大小島教授の「現代哲學の一動向」の學術講演あつて前途を祝福されつゝ盛大裡に閉會した。



校

友

### 關西大學政治學會再興

千里山政治學科卒業生で結成の「政交會」は、戰時中諸般の情勢から立消の形となつていたが、昨年末から再興を要望する機運が生じ、各期の代表が參加して再度準備會を開いて協議の上一月三十一日再興第一回總會を開催した。まづ吉田圭文氏(第一回)から經過報告があり、安富敬作氏(第八回)から會則案が提示され満場一致で可決、會名を「關西大學政治學會」と改め再發足した。今後政治學の研究を進めるため座談會や研究會を開くと共に政治學科學生の學會とも連絡を取つて互に研究を重ね、また會員から一人でも多く國會、地方議會へ送り出すため緊密な連繫を取ることを申合せた。最後に千里山の青春時代を思い出しつゝ一同學歌を合唱解散した。

尙ほ本會の事務所は、大阪市西區土佐堀通一丁目肥後橋ビル三階九號室安富敬作方

出席者芳名

吉田圭文、安富敬作、宮川一男、横山三郎、中野由藏、吉田勝、常浦詢爾、瀧川正道、岩本公夫、千田恭治、永井暉、稻野治兵衛、山下勇次、中野文吉、坂井三郎、藤田定男(順序不同)

## 校友會常議員會

二月二日(土)午後四時より常議員會を開催し左記事項等を協議決定した。

- 一、校友課を早急に充實すること
- 一、評議員全部に對し學内勤務の中間報告をすること
- 一、地方支部に積極的に呼びかけ協力を要望すること

當日の出席者

岩崎學長、春原理事、阿部監事

中務平吉、角田好太郎、森川太郎、志野覺治郎、織田佐代治、長柄金吾、大石雄一郎、坂本龍夫、青山壽一、樫本信雄、神屋敷民藏、西田健

以上(出席順)

二月二十一日(土)午後二時より天六學舎に於て常議員會を開催し擴充委員の増員及擴充資金獲得運動の増強等について協議した。

當日の出席者

岩崎學長、春原專務理事、阿部監事

織田佐代治、樫本信雄、志野覺治郎、坂本龍夫、神屋敷民藏、大石雄一郎、角田好太郎(出席順)

二月二十八日(土)午後二時より天六學舎に於て常議員會懇親會を開催した

今回は決議事項としては無かつたが母校擴充資金募集の所期目的達成に全力を傾け努力することに申合せ、和氣籠々裡に數刻を過した。今回の懇親會には大石氏より多額の御寄附ありたることを書連へ感謝の意を表す。

當日の出席者

宮島理事、春原專務理事、阿部監事  
大石雄一郎、志野覺治郎、神屋敷民藏、坂本龍夫  
角田好太郎、織田佐代治、中谷敬壽、加藤昌秀

鈴木武夫(出席順)

四月二十七日(土)午後三時半より天六學舎に於て常議員會開催し左記事項を協議決定した。

- 一、校友會館建設に至る暫定的措置として校友俱樂部を設置することを承認決定す
- 場所 大阪市南區八幡町三六(御堂筋八幡町角)  
ランドサロン、モナコの二、三、五階を借用  
内部改装、什器の配置、貸借期間、俱樂部運営等に關しては尙檢討折衝の上決定すること
- 當日出席者

春原專務理事、原田理事

大月健、西村治三郎、神屋敷民藏、長柄金吾、大石雄一郎、角田好太郎(出席順)

五月二十二日(土)午後二時より天六學舎に於て常議員會を開催し左記事項等を協議決定した。

- 一、俱樂部として貸室契約書作成並に校友會代表として校友會副會長原田鹿太郎を以て調印すること
  - 一、俱樂部運営については常議員中の事業部委員により檢討協議を願ふこと
  - 一、本學評議員には校友會よりも適當なる人を推薦すること
- 尙校友外にて適當なる人士ある場合は進んでその候補者を擧げ推薦方に協力する様各校友に傳達すること

當日の出席者

原田理事、阿部監事  
志野覺治郎、神屋敷民藏、大石雄一郎、角田好太郎

一、本學より地方遊説を行ふ場合には校友側からも参加を希望する 而うして地方校友との連絡緊密化を図ること

當日の出席者  
原田理事、阿部監事  
志野覺治郎、神屋敷民藏、大石雄一郎、角田好太郎  
(出席順)以上

## 地方校友支部大會及 關大文化講演會

本年度より本學は他大學に魁け新制大學として發足し、漸く内外の諸般喜び、六十有餘年の大學史に光彩を副へるに至つた深き喜びと大學文化復興への燃ゆる意欲とを四萬餘の校友に分ち合つて、更に將來への大なる飛躍のため相携へて行かん此の際一層校友諸君と連帯を密にし、本學發展の紐帯となすべく表題の如き計畫を立案したところ、多大なる御聲援を辱くして別項の通り實施する運びとなつた。

六月下旬 廣島、岡山、姫路各支部

七月上旬 福岡、別府、鹿兒島各支部

七月中旬 高知、徳島、香川、愛媛各支部

七月下旬 和歌山支部

八月下旬 松江、鳥取各支部

九月中旬 四日市、名古屋各支部

九月上旬 福井、富山、石川各支部

尙此の企畫は將來、歐米の諸大學に於ける如く、大學巡回講義 (University Extension Lectures) にまみ發展させる意氣込である。

上記計畫に基いて左の通り校友懇談會及講演會が開催された。

六月二十日(日) 廣島市廣島女學院に於て。

本學側より岩崎學長、春原、原田兩理事、中谷法文學部長出席。

六月二十一日(月) 岡山市岡山商工會議所に於て。

本學側よりの出席者前に同じ。

七月四日(日) 福岡市碧雲莊に於て。

本學側より岩崎學長、高木教授、法學部學生寺西、城尾兩君出席。

七月二十四日(土) 鳥取市選番小學校に於て。

本學側より岩崎學長、春原、原田各理事、下條監事出席。

以上各地共何れも盛會を極め、地元校友各位と膝を



交へて相語り、種々本學發展の爲有益な御意見を拜聴  
することが出来た。關係地元校友各位の御盡力に對  
し、紙上ながら甚深の謝意を表する。

### 校友會鳥取支部結成

今回校友地方支部大會及文化講演會開催を機に、鳥  
取支部が結成せられ、鳥取市を初め倉吉市、米子市等  
縣下の校友を網羅して發足することとなつた。  
尙支部長には西村輝一氏（鳥取市、明43、専法）が  
推された。

### 新倉武一氏（辰巳柳太郎丈）

を圍んで

本學推薦校友に推された辰巳柳太郎丈への推薦校友  
證書贈與は、恰も寶塚大劇場に出演中の同丈を訪れ三  
月二十五日盛大に行われた。本學側より各理事を初め  
辰巳丈の學友等多數出席し、先づ寶塚ホテルにて春原  
専務理事より同君に推薦校友證書贈與の後、懇談會に  
移り終つて大劇場に同丈主演の「月形半平太」觀劇會  
が催された。

### 校友會尼崎支部總會

七月三日午後二時より尼崎商工會議所講堂に於て、  
戦後再建を目指す校友會尼崎支部總會を開催、岩崎學  
長 春原専務理事を迎へて集り會するもの百餘名、先  
づ天野平一氏開會之辭を述べ次で支部長松尾高一氏の  
挨拶岩崎學長、春原理事の祝詞あり、役員改選等を終

へて餘興に移り、吉田縣會議員篤志による雁玉、十郎  
の漫才に興じ歡談裡に閉會。次で常任幹事の懇親會に  
學長を交へて和氣瀟々として師弟愛の美しい場面を見  
せ午後七時終了。

因みに改選の新幹部左の如し

支部長 松尾高一（留任） 副支部長 須佐美八藏  
同 西村治三郎  
幹事長 生濰忠三郎、顧問 吉田吉太郎外 四名  
（以下略）

### 校友昭七會

六月十二日（土）午後二時より天六學舎、新制大學發  
足後の母校で會合を催した。

原君（本學渉外課長）の司會の挨拶に次いで大學側  
を代表して春原専務理事より挨拶を兼ね母校の現状及  
將來の構想について率直に私見を述べられた。之を序  
曲として往年關西學生界の天狗連一言なかるべからず  
と話題に花を咲かせた。卒業後十數年此の間社會の荒  
波を乗切つた中年紳士を諸彦ら經驗と識見に物を云は  
せ「關大發展の具體策如何」と大見榮を切れば……半  
丁が這入る……和やかに斯くて論議の筋合にも各自貴  
録の片鱗が何はれ力強く感じられた。

閉會に當り氣分新に各位の現職御披露の自己紹介が  
あつた。在りし日の白練帽時代の「クラス」會を偲び  
つゝ紅顔ならぬ厚顔に満面の微笑を湛へつゝ、春原専  
務理事の「シヤレ」を飛ばし、最後に大學の發展と會  
員各位の健康を祈りつゝ散會した。

當日出席者

大學側 春原専務理事、原渉外課長、平井厚生課  
長、久松直治、早川巖、澤山勝、西田昌

弘、鎌田嘉之、吉岡賢五郎、丸山喜之造  
井本拙夫、東田博雄、前田瀧三、竹内幸  
一郎、谷口奈良男、越智比古市、戸根泰  
雄、田村芳夫、藤原忠義、行俊喬、加古  
徹次郎、直吉己一郎 以上

### 北陸地震と校友支部

北陸大震災の報に、直に福井、富山、石川各縣校友  
會支部に在任校友の安否を打電したる處、富山、石川  
兩縣は被害無く、福井縣では多少被害あつた旨返電あ  
つた。

### ◎校友會費納入者氏名

昭和二十三年度校友會費（金壹百圓也）納入者は左の  
通りであります。

伊藤 武男	加古徹次郎	推尾晋太郎
篠原鵬次郎	田中 清光	田中伊三郎
津田 良雄	中 善一郎	中西 與七
樋口 衛	藤原 龍太	本井 基樹
松井 辰夫	万井 成昭	中江 巽
森園 正幸	吉田太喜雄	脇田 廣繁
赤井 定雄	前田 卯吉	竹中 憲
小高 寛	藤井 正清	鎌田 嘉之
井本 拙夫	東田 博雄	西田 昌弘
直吉己一郎	久松 鹿治	戸根 泰雄
田村 芳夫	越智比古市	藤原 忠義
前田 龍三	行俊 喬	谷口奈良雄
竹内幸一郎	奥川 武郎	(原簿順)

（六月十二日現在） 計 三十八名

尙會費納入者で學報未着の方がありましたら渉外課宛  
御一報下さい。

◎昭和二十二年年度校友會費

納入者氏名(追加分)

昭和二十二年年度校友會費(但し昭和二十二年十二月以降)金壹百圓也納入者は左記の通りであります

- |      |       |       |            |
|------|-------|-------|------------|
| 菊地弘光 | 土山昭二  | 大石成夫  | 星野正身       |
| 鯉田昇  | 加戸雅之助 | 宍戸智明  | 妹尾光恭       |
| 富士田昭 | 田野昭   | 桃井猛   | 應地利夫       |
| 鈴木元彦 | 毛利卓二  | 辻啓一郎  | 野間秀泉       |
| 辻本直正 | 涉邊義正  | 朝生利一  | 瀧脇健一       |
| 來田治郎 | 米田隆夫  | 田中通雄  | 川口清        |
| 横田剛  | 今井信也  | 松原政次郎 | 神崎傳次郎      |
| 米田恒治 | 武田藏之助 | 上西榮萬  | 後藤正身       |
| 皆木鐵夫 | 大西進   | 小川喜雄  | 甲川彰彦       |
| 浮田大作 | 中尾省三  | 御立信郎  | 神保敏男       |
| 村尾諱明 |       |       | (原簿順)計四十一名 |

四顧無邊

出版權

戦後の出版界に變な出版物と無斷出版の出版權侵害はいろいろな話題を投げ最近の讀書新聞で見ても中々にぎやかである。

明治九年發行の「近事評論」には福澤諭吉はその著

西洋事情が京都で偽板が行はれたことを憤つて「西京人ノ入門ヲ拒絶ス」と報じてゐる。ところがこの入門を拒絶された人の言葉が面白い。「抑モ先生カ此著述アルハ我邦ノ人民ヲシテ務メテ彼ノ國ノ事情ヲ知ラシムルニアルヲ以テ……此僞刻アル暗ニ先生ノ志ヲ助成スル者ト云フ可ナリ、又何ソゾ小丈夫ノ如ク其ノ非ヲ聲ラスヲ須ヒンヤ……假令先生ノ僕ヲ拒マサルモ僕ヨリ之ヲ避ケントス」と「奮然袖ヲ拂ツテ去リ復タ共ニ言ハズ」と。

限 界

民主的とか自由とかいふ言葉は一寸食傷氣味になつてきたが、社會生活である以上自由にも我儘との限界がある筈である。

階級制度の嚴しかつた時代に不遇な中津藩の下士族として生れた福澤諭吉は、自傳の中で「藩風がよくないとか何とかいろいろ不平を洩してゐるのを聞いて、よしなさい、ばかばかしい此中津に居る限りは、そんな愚論をしても役に立つものではない、不平があれば出て仕舞ふが宜い、出なければ不平を言わぬが宜い」と言つていたと書いてある。



關大趣味の會々員募

短歌

指導 關大教授

堀 正人先生

俳句

指導 關大教授

金子又兵衛先生

川柳

指導 番傘同人

山田菊人氏

會員を募ります 希望者は返信料をそへ趣味の會宛に照會して下さい 地方會員には實情に應じて指導します。

天六學舎内

關大趣味の會係

# 關西大學校友俱樂部開設について

母校學園は、本年度を期し他大學に魁け新制大學として發足してより、漸く内外の諸般整ひ、六十有餘の星霜經る大學史に一段の光彩を添へ、茲に母校復興も名實共に完璧を期し得るの現況を觀るに到りました。

この間四萬有餘の校友諸彦の母校へ示めされたる獻身的な御援助は枚擧にいとまありません。今回この御熱聲にお應へ致す可く且つ將來本學發展の大計にも資すべく、多年懸案中の校友會館建設事業の一端として左記場所に關西大學校友俱樂部を開く排びとなりましたことは御同慶に堪へません。就而我が學園校友は各部科卒の別なくこゝに集ひ、こゝに會して互に友情を温め將來御發展の機縁にもと、共に奮つて御利用あらんことを御願ひ申上げる次第であります。

因に吉日を下し(九月上旬の豫定)同俱樂部開設披露を賑々しく舉行致したいと存じ居ります。目下改裝工事に拍車を懸け準備中であります故此の段經過報告旁々御案内まで如斯に御座います。

場所 大阪市南區八幡町

## 關西大學校友俱樂部

グランドサロン モナコ内  
電話南(75) 一七八二番

關西大學總務局 渉外課

校友各位

## 關西大學校友俱樂部

### 規約(暫定)

關西大學校友俱樂部は左の通り規約する

#### 入會

一、關西大學の校友は總て自由に入會することが出来る

一、入會希望者は所定の申込書に記名捺印する

#### 運 營

一、本俱樂部の運營は若干名の委員の合議制に依る

一、委員は會員中より選出し、委員の任期は一ヶ年とする

#### 使 用

#### 維持會費

一、俱樂部の維持は會費と寄附金とに依る

一、會員は入會の當月より毎月金壹百圓也を負担するものとする

#### 總 會

一、委員は毎年三月に總會を開き一ヶ年の經過報告をするものとする

#### 其 他

一、會員にして慶祝に値する事ありたる場合は額の多少に不拘自ら進んで俱樂部に寄附するものとする

以上

Grand Salno

サロン

モナコ

大阪市南區八幡筋  
但心齋橋筋西入南側

書籍、雜誌  
定期刊行物 印刷

株式 代表取締役 西井 幾藏  
ナニワ印刷所

大阪市北區川崎町七  
電話堀川三一九三番

# 關西大學研究論集復刊豫告

大學は研究のウニヴェルシタスであると共に文化の推進力である。

大學に於ける法文經商各専門部門並に廣く文化一般に亘つて夫々の研究勞作及業績を多角的且體系的に論述發表し、以て大學文化の昂揚に資すると共に文化一般の發展に寄與せんと企圖の下に刊行せられて居た關西大學研究論集は、去る昭和十八年度刊を以て一時刊行を中止するの止む無きに立至つて居たが今般新制大學發足を機として、嶄新なる構想と繊細なる時代感覺とを以てなされた研究業績を、單に講壇にのみ限定せず、廣く文化を愛好する人々に頒たんと、再び茲に關西大學研究論集を新たなる企畫をもつて復刊し、江湖諸彦の机上に呈せんと欲する。宜しく御期待と御愛讀を希ふ。

## 關西大學

御願ひ

復刊第一號は近く刊行の豫定であります。發行部數も相當制限されりと存じますので地方校友各位の便宜を圖り豫約を承りますから、何卒當部まで御申込下さい。

關西大學出版部

### あとがき

口癖にいふインフレ下に、いろいろ無理をして復刊二號を送る。再建關大を目指してみんな眼切つてやつてゐることを少しでも理解して頂きたいこと、學報を通じて各地の校友諸君と連絡するつながりとしての當面の目的である。地方支部校友會に臨んでみて、永く連絡の絶えてゐた先輩を氣にしながら語りあつてゐるのを見て母校懐しの氣持、それに應る對校友策をもつと推進しなければ、としみじみ感じさせられる。

さうやかなこの學報も、こんな氣持で送り出され、こんな氣持で受けとつて頂くこと、こんな大きな役目を立派に果してくれらることを念じてゐる。今度からは出版部の羽野君がやつてくれることになり、近く大學の眞價を誇示する研究論集發行の準備に大奮である。

學報の表紙もこんどから戦前に戻ることになつた。出版部の心遣ひの一つである。十數年の苦しかった時代を一應空白にして、こんな表紙の學報が出てゐる關大から現在、空気がなかつたらどんなに飛躍してゐたであらうかが想像できるであらう。

特に題字は關大五十年史の序文を書いた喜多村理事の筆のことである。これを選んだのも懐しいもの、一つとして、どういふ行き方を選んだらよいのか、形と内容はどうすればよいのか、いろいろ研究しながらも苦心してゐる。お氣づきの點はどしどしお知らせを乞ふ。よりよき内容を盛るため、親しみのある學報とするために。

ある吉田君があの輕妙な筆にものをいわせて口八丁手八丁の片鱗をのぞかせてくれたことは嬉しい。現代生活の中でも特に針に、生きてゐる、鋭くつきさつてゐる。なかにも特ダネをスリプする記者が辭表を懐にして飛び出して行くその心構へは何か峻しい教訓を含んでゐる。みんなこんな氣持でやつたら世の中もよくなる、大學もよくなる。

學校關係者の發表されたものは氣づいた方から知らせて頂きたい。できるだけ學報を通じて紹介することにしたから。あゝ彼奴がこんなものを書いたのか、といふのも懐しいつながりの一つだ。

北海道の納庄清之進君(昭4專法北海經濟新聞專務)から母校の現状を知らせ學報や論集はどうなつてゐるかを紹介があつた。こんどの汽車賃から計算すれば遠い國のような感じのする處にも校友は熱心に母校の發展を見守つてゐてくれる。學報よしつかりしてくれ、も一度つぶやいてみる。

大正二十七年七月十五日印刷  
昭和二十三年八月五日印刷  
昭和二十三年八月十日發行

不許製  
關西大學  
發行所 關西大學出版部  
大阪市東淀川區長柄中道  
二丁目十二番地  
復刊 關西大學出版部  
大阪市東淀川區長柄中道  
二丁目十二番地

千里山學舍 大阪市外千里山  
電話吹田一三三・四六一  
天六學舍 大阪市東淀川區長柄中道  
電話堀川一七五六

騰寫版印刷と圖書出版

關西大學指定教科書及參考書取扱

株式會社

紅 帆 社

本店 吹田市千里山關西大學前通  
營業所 大阪市長柄關西大學天六學舎前

性 病 科

梅田阪急東半丁  
舊 扇 町 線

法醫學士博  
江 里 口

(昭和九年關大學部卒)

洋

服

紳士服

學生服其の位

新しいデザインで

長 谷 屋 洋 服 店

市電上六西半丁南側



特許・商標・意匠・新案出願全般

特許 辨理士  
代理 法學士  
**鈴木武夫**

大阪阿倍野橋阿倍野百貨店南側東へ半丁

電話天王寺三七九五番

校友各位の御支援を

事務用文具専門店

**津田三協堂**

津田 弘  
菅 徳 光

大阪市北區會根崎新地一丁目三二

松下企業經營研究所

計理士  
稅務代理士

**松下忠由事務所**

事務所

良宅

大阪市北區梅ヶ枝町一八八  
但宇治電ビル東側  
芦屋市業平町二六  
電話芦屋五一三七番

ネオヒカール本舗

試験用藥品並ニ特殊工業藥品弗化物製造並ニ販賣業

◎産興ふくらし粉

**産興化學株式會社**

社長 宮武喜三郎

本社 大阪市東區平野町三丁目二

三國工場 電話南三四三八・三五四五・三五七七

布施工場 電話豊崎一九七一、三國一七七

電話 東七二三五